

令和2年度事業計画（案）

長崎県総合計画の基本理念を実現させるための政策「本県ならではのソフトパワーの活用・発信」「文化スポーツによる地域活性化」の中で、世界に通用する歴史・文化の活用発信や子どもから大人まで良質な芸術に触れられる機会の提供の拠点として、長崎県美術館は位置づけられています。本事業計画に基づき、効率的な管理運営を行うとともに、アートが持つ多様な力を引き出しながら地域の様々な課題に対し、県の政策方針に協調した取り組みを積極的に実施します。

1 長崎県美術館の基本方針

当財団が提案する長崎県美術館の運営コンセプトは、血が通い、温かい命が巡る「呼吸する美術館」です。人々が芸術文化生活を楽しみ、人生を心豊かに生きていくためのパートナーとして、多種多様な交流活動の場として機能し、地域の大きな魅力になることを目指します。このため、次の3つを基本方針とし、長崎県美術館の管理運営にあたります。

【基本方針】

① 「交流」

すべての人々を潜在的利用者にとらえ、年齢・性別・学歴・国籍などの相違に制限されない美術館活動を目指し、地域や世界との交流の輪を広げます。

② 「創造と連携」

長崎県美術館は、県内ミュージアムの中核施設として、規模・館種・設置者・地域の相違を超えて、相互理解を深め、学校・大学・国内外の美術館や生涯学習施設とともに、家庭・ボランティア・NPO・行政・企業など地域社会と連携し、子どもから高齢者まであらゆる世代と協働し、豊かな感性と創造力を育み、新たな長崎文化を創出して、地域連携から国際連携の推進を目指します。

③ 「体験と発信」

「展示・公開」中心の美術館から「参加・体験」する生涯学習活動を重視する美術館として、県民・市民が広く参加する講演会やワークショップなど様々なプログラムを企画し、その積極的な情報発信を行い、日常生活の中でも身近に触れ合い気軽に利用できる、開かれた美術館を目指します。

【使命を実現する方策について】

21世紀における長崎県の新しい芸術文化活動の拠点となる長崎県美術館の使

命の実現に向けて、多様化する利用者意向と変化する社会環境に的確に対応しつつ、15年間の運営ノウハウと総合的なマネジメント機能を発揮し、多岐にわたる美術館事業を展開いたします。

① 「多くの人に鑑賞機会を提供する多様なジャンルの芸術紹介」

これまで長崎県美術館では、年間約6回の企画展及び常設展示室での小企画展の開催を通じ、収蔵品の柱であるスペイン美術及び長崎ゆかりの美術はもとより、欧米を中心とした各国の美術と多様なジャンルの芸術を、古典から現代まで幅広く紹介してきました。

これからもこの方針を基本としながら、助成金や協賛金の獲得やマスコミとの共同開催など、事業に適した開催方法により健全な経営の維持に努め、これからも幅広い利用層にアピールする良質な展覧会を開催し、県内外から多くの方に来館していただける地域拠点としての役割を果たします。また、本県は離島を含む遠隔地が多いことから、県内の市町と共同で、長崎県美術館の作品に親しんでもらう「移動美術館」の開催やテレビ会議システムなど通信機器を用いて美術館からの中継を行う「遠隔授業」の実施など、県内全域において、美術に親しむ機会を平等に提供するための事業の推進に努めます。

② 「すべての人に生涯学習の場を提供する」

長崎県美術館では、県民ギャラリーやホール・講座室などの施設利用や生涯学習・教育普及プログラム、アートボランティア活動の実施など、幼児から高齢者まで幅広い層における学習・参加・体験・発表する機会の創出に取り組み、地域と美術館の活性化を図ってきました。

これからも地域に根ざし、学校・大学や生涯学習施設、研究機関との連携を深め、「まなぶ・つくる・深める」をテーマに活発な活動を行い、生涯学習・教育普及活動の拠点としてネットワークの拡大と利用促進に努めます。

③ 「新しい芸術・文化空間としてのライフスタイル」

長崎県美術館では、開放感のあるエントランスロビーでのイブニングライブ、アートビジョンでの映像作品上映、館内での婚礼前撮り、屋上庭園での花火観賞やコンサートなど、地域力を活用しながら、様々なイベントの場を提供する取り組みに努め、いつも楽しいイベントが溢れる美術館として県民の皆様に親しんでいただく努力を続けてきました。

また、気が向けば屋上庭園のベンチに座って、行き交う船を眺めたり、夜景を楽しんだり、季節の樹木や草花を愛でたり、カフェで軽いランチや美味しいスイーツを味わったり、ショップでここでしか買えないお気に入りのグッズを探したり、情報コーナーで読書をしたり、そして閉館後にお洒落な雰囲気の中で特別コンサートを鑑賞したりという、美術館を利用した様々な時間の過ごし方を提案し

てきました。

これからも長崎の自然を感じながらゆっくりと美術を楽しむことができる魅力あふれる空間として、さらに多くの人々が美術館の多様な利用を楽しめる運営を目指します。

④ 「交流人口の拡大と地域の活性化、まちづくりの拠点としての活動」

出島・グラバー園・新地中華街を結ぶ観光動線上に立地し、水辺の森公園とともに地域のランドマークとして、開放的で美しくデザインされた長崎県美術館の特性を活かし、帆船まつり・みなとまつり・おくんち・ランタンフェスティバルなど、長崎の多彩な歳時記や臨海エリアのイベント会場として、エントランスロビーや屋上庭園・運河劇場などの幅広い活用に努め、地域の人と交流し、溶け込み、魅力向上を図っていきます。

また、観光客に対しては、長崎県観光連盟や長崎国際観光コンベンション協会と連携し、長崎歴史文化博物館との「常設展共通観覧セット券」や出島など地元の文化観光施設との「長崎遊学券」「長崎さるく」などの共同開発した商品を、県内外のマスコミ・旅行会社・交通機関にご活用いただき、観光振興や情報交換の軸となり、長崎県の観光資源としての価値を高める美術館としての役割を担うよう努めます。

これからもこの方針を発展させ、地域との交流や文化観光施設との連携による交流人口の拡大を図りながら、地域活性化の拠点として成長いたします。

⑤ 「新しい運営方針に沿ったビジネスモデルの構築」

当財団では、公益財団法人としての経営目標を達成するため、事業年度ごとに事業計画と実績の差異分析や評価を行い、差異要因の抽出と改善施策を講じ、それ以降の計画内容に修正・変更をかけることで、所期の目標達成を迫及するシステムを確立しており、美術館事業のマネジメント能力および来館者満足度の向上、さらには経営管理ノウハウの蓄積に努めてまいりました。

これからは人口減少や超高齢化社会の到来など、厳しい事業環境におかれる中で、運営損失金リスクに対しての資金面の備えを講じ、企業のメセナ活動の一環としての事業協賛や個人、法人からの寄附金を募り、財団の経営基盤の安定化を図ります。また、職員のスキルアップを行ないながら、学芸部門と管理部門との密接な連携を図り、高い相乗効果が発揮できるようマネジメントいたします。

⑥ 「建築理念を管理運営に活かす」

歴史的価値の高い出島に近接している立地条件、開放的で美しいデザインを持った美術館の特徴を生かし、文化活動を通じて、美術館を愛するファンを生み出す努力をいたします。楽しみを求めて来館される子どもから高齢者まで、全ての利用者に心から満足して頂くために、どんな時でも利用者の気持ちを汲み取る努力を怠らず、

臨機応変に行動することを信条とします。長崎県美術館はユニバーサルミュージアムを目指し、利用者が美術館を出るときに満足していただける美術館に向けて成長いたします。

2 行動指針

- (1) 15年間の実績とノウハウを基に、開かれた美術館として、美術に親しむ利用者を拡大します。
- (2) 美術館として最大限の効用を発揮するために、社会環境の変化に的確に対応しつつ、「総合的なマネジメントシステム」を確立し、目標収益の確保と運営効率の向上及びCS重視のサービスを実践します。

3 事業方針

(1) 展示事業の充実

常設展示室においては、所蔵名品展、長崎ゆかりの近現代作家の顕彰、新収蔵品の公開、長崎出身の洋画家の小企画など、展示室ごとに2～4ヶ月単位でテーマを決め、多彩な文化資源を持つ長崎ならではの展覧会を開催し、常に新しい多様な視点より長崎県美術館のコレクションの魅力を伝えながら来館者の誘致を進めるとともに顧客満足度の向上を図ります。

企画展示室においては、県内外からの交流人口の拡大を促進する魅力的な大型展を柱に、スペイン美術を標榜する当館の特色を生かした展覧会、社会の動きに連動した企画展、子どもたちのデザインマインドを育み、体験することのできる展覧会やオリンピックイヤーにふさわしい新国立競技場の設計を手掛けた隈研吾の仕事の総体を紹介する展覧会、現代スペインを代表するアーティストの展覧会など幅広い県民のニーズに応える多彩な展覧会を、顧客層となる世代間のバランスをとりながら開催します。

(2) 生涯学習、教育普及プログラムの充実

子どもや高齢者といった利用者の生活時間やニーズに合わせた事業計画に取り組む。教育普及プログラムでは、「まなぶ・つくる・深める」を基本テーマとし、鑑賞と表現の活動を中心に学校と美術館が連携し、美術教育を進めます。

生涯学習支援活動については、優れた美術作品の鑑賞や学習の機会、作品の創作や発表の場を提供し、特に今後は高齢者を含めた県民の生涯学習ニーズに対応するようなプログラムを開発・実施いたします。また、長崎県は離島を含む遠隔地が多いため、移動美術館や特別鑑賞プログラム等を実施し県内の美術振興を支援します。また、これまで鑑賞機会の少なかった福祉施設への入所児童や、引きこもり傾向のある児童生徒に対しても積極的に来館・鑑賞の機会をつくります。

そのほか、海外の美術館との国際交流事業として、連携13年目となる釜山市立美術館との交流を実施するなど、国際交流の機会を創出します。

(3) 調査研究活動の充実

スペイン美術に関するアドバイザリーボードや、プラド美術館との連携、小企画展

「長崎の美術」シリーズの開催など諸々の機会を通じ県民の貴重な資産である収蔵品等の調査研究をすすめることで、その資産的・学術的価値を高め、広く情報発信します。

(4) 長崎県の中核美術館としての連携

県内の美術館をはじめ、大学・研究機関等と連携し、長崎県における美術研究の中核施設として美術教育や調査研究における交流の場を提供します。また、主に企画展の準備や所蔵作品調査において、国内外の美術館との連携を図ります。

(5) 美術館の多様な活用

長崎水辺の森公園と連続した美術館であり、数々の建築賞を受賞しているデザイン性の高い美術館であるという館の特性を活かし、年間を通じ講演会・コンサート・アートビジョンの有効活用等、展覧会事業だけでなく、他の様々なイベントを展開し、美術作品の展示にとどまらないユニークベニューとしての新しい美術館像を目指しながら、入館者の増加を図ります。

(6) 利用者意向に基づいた事業展開と、積極的な営業活動

展覧会ごとにアンケート調査を実施することにより、利用者の評価とニーズを的確に把握し、その後の事業に反映させます。観光客の誘致のために長崎歴史文化博物館や周辺観光施設との連携を深め、長崎のイベントや祭りと連動するなど、入館者の増加を図ります。

(7) 効率的で効果的な事業推進

美術館事業全般において、財団基盤の強化、事業統制推進、全体統制強化などマネージメント機能の強化、各利用料金事業の収益改善、組織運営効率化による組織管理力向上、経常的支出の節減促進を目的とする事業環境の変化に適応した業務改善の推進を図ります。

令和2年度来館者数目標：36万人

企画展	常設展	生涯学習・教育普及	県民ギャラリー等
113,000人	50,000人	30,000人	201,000人 *主催企画展を含む

※重複利用調整 △34,000人

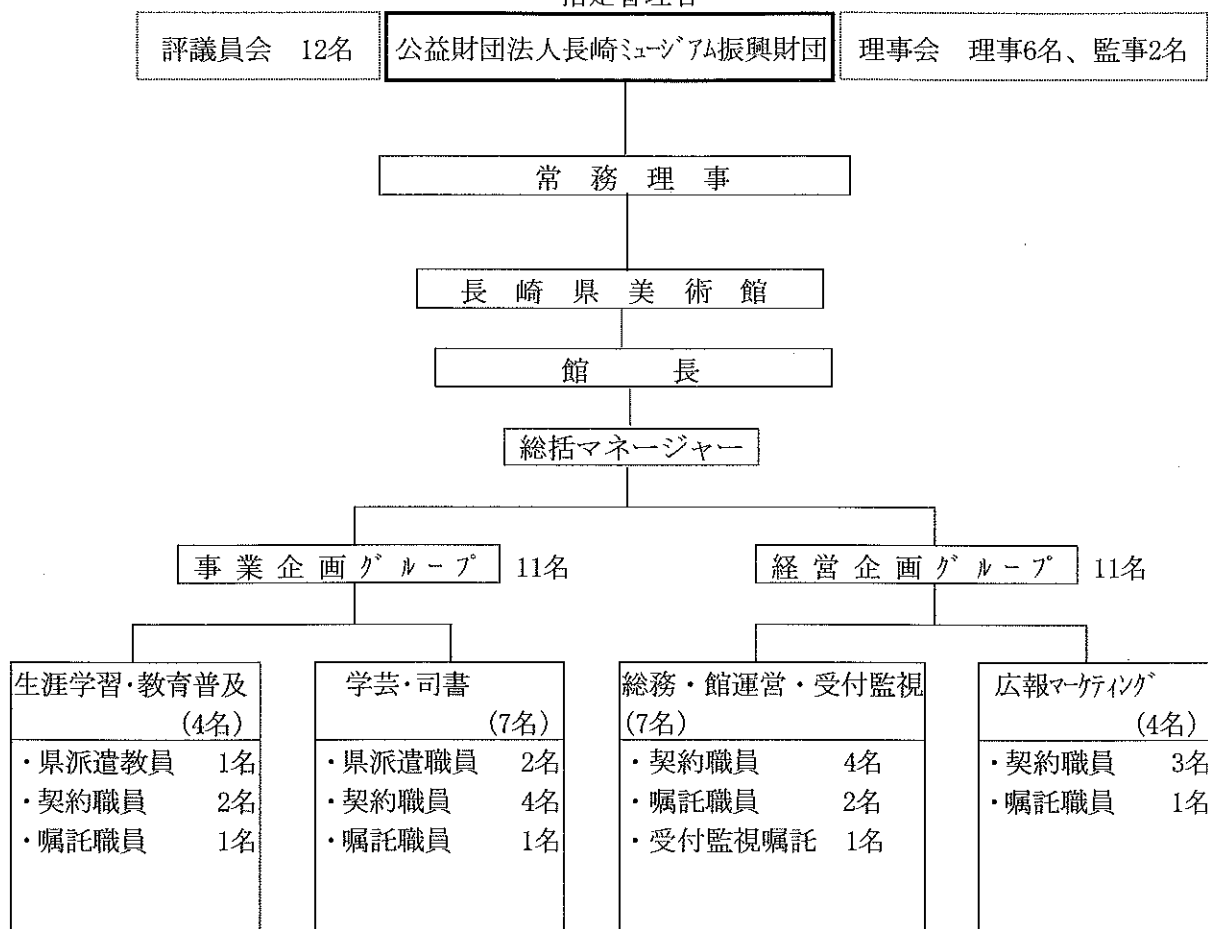
〈令和2年度負担金事業 事業費 361,669千円〉

■人員配置及び人件費計画（事業支出 127,823千円）

1. 経営目標を達成するため、公益財団法人としてこれまで蓄積してきた総合的な経営能力を発揮し、「営業力の向上」「マネジメント機能の強化」「利用料金事業の収益改善」「組織管理能力の向上」「経常的支出の節減促進」の経営課題の抽出と改善施策を講じる。
2. 事業計画に基づく事業の展開を効率的・効果的に行うことを目的とした組織構成と、適正な人員配置を実施するとともに、明確な責任体制と執行体制の構築を図る。
3. 個人情報保護や公益通報者保護及び人権問題研修等の職員研修を実施し、コンプライアンス意識の醸成を図る。また、利用者意向調査にもとづく改善意見の反映や苦情対策システムの構築と、運営マニュアルの更新を適宜行う。
4. 県と定期的に運営会議を開催し、館の運営上の諸問題等について共通認識を持つとともに、早期改善に努める。
5. 職員研修
 - ・専門研修
職員の専門的知識・スキルの向上を図る外部機関の研修を受講させることにより人材育成を図る。
文化財保存研修、学芸員研修、エデュケーター研修、公益法人研修、ボランティアコーディネーター研修、ストレスチェック制度研修
 - ・総合研修
美術館職員として必要とされる知識の取得を目的とした研修を実施する。
新規職員研修、コンプライアンス研修、人権問題研修、普通救命講習、AED研修、サービス介助、接遇マナー研修、英会話研修、消防訓練

長崎県美術館組織図

指定管理者



■ 調査研究事業（事業支出 5, 882 千円）

1. 収蔵作品に関する調査研究

- ・ 調査研究方針の策定および計画的な調査研究の実施。
- ・ 作品購入、寄贈受け入れに関連した情報収集・調査研究。
- ・ 収蔵作品の作者、主題、制作年代等に関する調査。
- ・ 収蔵作品に関連する文献資料の調査・収集。
- ・ 収蔵作品の来歴・展覧会歴についての調査。
- ・ 収蔵作家に関連する文献資料の調査・収集。
- ・ 収蔵作家の著作権者の所在確認。
- ・ 旧県立美術博物館より継承した文献資料等の分類・整理。
- ・ データベース（画像を含む）の整備。
- ・ 展覧会や図録、紀要等による調査研究成果の発表。（紀要発行年1回）

2. 保存修復に関する調査研究

- ・ 作品の重要性や状態による優先順位に基づく計画的な修復作業の実施。
- ・ 他館（欧米の美術館を含む）の活動状況に関する調査。
- ・ 保存修復に関する文献資料等についての調査・収集。
- ・ 最新機器、材料に関する調査研究。

- ・適正な保存環境・展示環境に関する調査研究。
3. 展覧会企画に関する調査研究
 - ・展覧会の企画内容に関連する文献等の資料についての調査・収集。
 - ・展覧会の企画内容に関する調査研究。
 - ・出品予定作家および作品に関する現地調査。
 4. 生涯学習・教育普及支援に関する調査研究
 - ・他館（欧米の美術館を含む）の活動状況に関する調査。
 - ・生涯学習・教育普及に関する書籍等の資料の調査・収集。
 - ・事業の企画内容に関する研究。
 - ・紀要等による成果の発表。
 5. 美術情報に関する調査研究
 - ・蔵書の分類・整理に関する調査、調査内容に基づく分類および整理方法の立案と実施。
 - ・購入及び寄贈図書に関する情報収集および受け入れの実施。
 - ・研究室、情報コーナーの運営に関する調査。
 - ・蔵書データベースの整備。
 - ・所蔵作家・作品に関する情報の収集およびアーカイブの構築。
 - ・作品画像の整理。
 6. 須磨コレクションに関する調査研究
 - ・スペイン美術に関するアドバイザリーボードの会合の開催と、そこでの審議内容に基づく調査計画の策定。
 - ・コレクションの全体像および形成過程についての調査。
 - ・作品調査（帰属、来歴、図像、技法等）。
 - ・収集家としての須磨彌吉郎についての調査。
 - ・須磨旧蔵の文献資料の整理・調査。
 - ・須磨家に残されている関係資料の悉皆調査。
 - ・県に対する実績報告。
 7. 他の美術館、博物館との連携事業
 - (1) 国内外の他館との連携事業
 - ①企画展に関する事業
 - 共同企画、共同調査研究等
 - 作品の貸与
 - 作品の借用
 - ②調査研究に関する事業
 - 文献資料、作品等に関する情報の相互提供：
 - ・国内外の美術館との紀要、展覧会図録等刊行物の交換および資料の相互閲覧等
 - スペイン美術に関するアドバイザリーボードの運営：
 - ・調査内容や収集等に関する審議等
 - (2) プラド美術館との連携事業
 - ・当館学芸員のプラド美術館への短期研修派遣

- ・プラド美術館等での旧須磨コレクションの現地調査や作品貸借等の協議
- (3) 釜山市立美術館との連携事業
 - ・交換ワークショップの開催
 - ・新たな連携関係構築に向けての協議
- (4) その他
 - ・全国美術館会議 各種ワーキンググループへの参加

■ 作品の管理・保存修復事業（事業支出 7, 372 千円）

1. 修復事業

- ・収蔵作品の重要性や状態などに基づいた中長期計画及び展示計画を踏まえて、職員の監督のもと、専門業者により計画的に修復を実施する。
- ・作品の安全な保存・展示のため、重要性や状態などに応じて、計画的に修復、汚損除去、保護用ガラス装着等の適切な措置を行う。

○令和2年度修復予定作品（計60点を予定）

- (1) 長崎ゆかりの美術資料の修復（計35点を予定）
 - ・令和元年度収蔵資料を中心に作品修復、汚損除去・裏面保護等を実施
- (2) スペイン美術資料の修復（計25点を予定）
 - ・須磨コレクション作品を中心に作品裏面保護、低反射ガラス装着等を実施

2. 作品の管理

県が定めた「長崎県美術館の管理等基準」及び館が定めた諸規程に基づき、収蔵作品の管理を適切に行う。

- (1) 管理状況の確認
 - ・作品展示および保存の環境を適正に維持するため、収蔵庫や展示室等の日常的な空調管理、温湿度管理を行う。
 - ・上記管理状況について、定期的に検査する。
- (2) 作品及び作品画像の貸出管理
 - ・収蔵作品及び作品画像の閲覧・撮影・貸出等について、適正な管理を行う。
- (3) データベースの管理・更新
 - ・収蔵作品の情報を適正に管理するとともに、収蔵作品に関する情報及び画像のデータベースを適宜更新することによりコンテンツの充実を図る。
- (4) 作品の管理報告
 - ・美術館の保存環境及び作品の管理等を適切に行う。

■ コレクション展・企画展事業

（事業支出 106, 577 千円、事業収入 72, 144 千円）

幅広い年代にアピールできる多彩で魅力的な展覧会をバランスよく配し、わかりやすい展示に努めながら、県内の文化振興及び県内外客の来館を促進する。

1. コレクション展事業 ((内数)事業支出11,755千円 事業収入6,401千円)

- ・コレクションを深く丁寧に紹介することを目的に、収蔵名品展を開催するほか、長崎ゆかりの作家・池野清の小企画展など年間を通して開催し、近年ニーズが高まっている長崎ならではの作家・作品の紹介に努める。またもう一つの小企画展として、イタリア出身の宝飾デザイナー、ジュリオ・マンフレディのキリスト教にちなんだ宝飾品を展示する。
- ・基本的に各展示室(全5室)とも2~4ヶ月単位でテーマを決めて内容を入れ替えることで、常に新しい多様な視点よりコレクションの魅力を伝えながら来館者の誘致を進めるとともに顧客満足度の向上を目指す。

※目標:50,000人

【第1,2室】

- ・「収蔵名品展」 4月4日~4月19日
- ・「ジュリオ・マンフレディ」 4月24日~6月7日
- ・「池野清展」 7月30日~9月27日

【第3室】

- ・「須磨コレクション」 通年

【第4室】

- ・ホセ・エルナンデス 未定

【第5室】

- ・「スペイン近現代美術」 通年

2. 企画展事業 ((内数)事業支出94,822千円、事業収入65,743千円)

※特別経費負担金収入10,000千円含

- ・スペイン美術を標榜する当館が中心となって進めてきたバルセロナ展、ポピュラーコンテンツ、フランスの現代美術など多様なジャンルの展示を行い多くの県民のニーズに応えるとともに新たな来館者層の発掘を図り、交流人口の増大に寄与する。
- ・各展覧会ともターゲットとなる顧客層を明確に設定しつつ、季節に相応しい内容の展覧会を戦略的に配置。

※目標:113,000人

(1)「デザインあ」

- ・開催期間:4月11日(土)~6月14日(日)
- ・展示概要:子どもたちのデザインマインドを育む番組NHK Eテレ「デザインあ」。本展は「デザインあ」のコンセプトを、体験の場に発展させた展覧会。優れたデザインには、人と人、人とモノをよりよくつなぐ工夫があります。番組では、身のまわりに意識を向け(みる)、どのような問題があるかを探り出し(考える)、よりよい状況をうみだす(つくる)という一連の思考力と感性を「デザインマインド」ととらえ、多彩な映像表現をもちいて伝えてきました。デザインあ展は、この「デザインマインド」を見て、体験できる展覧会です。

・目標:60,000人

(2) 「日展」

- ・開催期間：6月21日（土）～7月20日（月）
- ・展示概要：日本美術展覧会（日展）は、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の5部門からなる総合美術展です。明治40年に開設された日本初の官展である文部省美術展覧会（文展）を前身とし、100年以上の歴史を持つ日展は、現在でも公募展として日本最大の規模を誇ります。
本展では、理事・会員など日展を代表する作家の作品をはじめ、受賞作品など各部門からすぐれた作品の数々が一堂に会します。また今回は、これらの作品に加えて主に九州出身の作家たちを特集して展示します。
日展が長崎で開催されるのは実に11年ぶりとなります。
- ・目標：12,000人

(3) 「ゆかた 浴衣 YUKATA」

- ・開催期間：7月25日（土）～8月30日（日）
- ・展示概要：和服離れが進む現代においても、唯一、若い年齢層も含めてファンを増やしているのが夏の涼衣、ゆかたです。長板中形の型染めや有松絞りなど、伝統の技法を生かした浴衣から、デザイナー浴衣まで、伝統の枠を超えて、現在の生活の中で進化を続けています。
本展では「ゆかた」「反物」「型紙」「型見本」のほか、ゆかた姿を描いた浮世絵やうちわ絵などの資料を通して、ゆかたの文化史を江戸時代から昭和初期を中心に時代を追って紹介しながら、さらに、現代もなお広く受容されているゆかたの魅力を、そのデザイン性と遊びの要素から紐解いていきます。
- ・目標：10,000人

(4) 「マヌエル・フランケロ」

- ・開催期間：10月17日（土）～1月3日（日）
- ・展示概要：マヌエル・フランケロ（1953・）は、現代スペインを代表するアーティストの一人です。フランケロはまず画家としてキャリアを開始し、その驚異的な細密描写は他の追随を許さず、次世代を担うリアリズム画家の旗手として高く評価されてきました。2010年代からは絵筆をデジタルカメラへと持ち替え、写真作品に取り組んでいます。作家自身は、絵画であろうと写真であろうと追及しているのは常にリアリズムであると語ります。つまり表現手法は変わっても、現実世界を解釈しようとする試みは一貫しているのです。コンセプチュアルなアプローチによって現実のありようを提示し続けるフランケロは、まさにリアリズムの最先端を走る作家といえるでしょう。
- ・目標：15,000人

(5) 「隈研吾」

- ・開催期間：1月22日（金・祝）～3月28日（日）
- ・展示概要：本展はオリンピック・イヤーにあたる2020年度に、オリンピックのメイン会場となる新国立競技場の設計を手掛け、現在世界的に最も注目を浴びている建築家の一人である隈研吾の仕事の総体を紹介する目的で開催される。長崎県と隈研吾の縁は深く、隈自身、その出自を大村藩の家老であった隈家に持つ。展覧会は「導入部」「展開部」「提案部」の三部構成となる予定である。なお、本展は文化庁が主導する「日本博」の採択事業として開催されるものである。
- ・目標：16,000人

(6) 常設展示室企画①「池野清」

- ・開催期間：7月30日（木）～9月27日（日）
- ・展示概要：池野清（1914-1960）は、長崎市出身の洋画家。戦後、原爆症と闘いながら、独立展を主な発表の場として、樹木や静物を題材に静謐で瞑想的な作品を残した。没後、友人であった佐多稲子の小説『樹影』の主人公のモデルとして一部でよく知られるようになるが、所在が判明している作品の数が少ないこと等からその画業も生涯についても不明なことが多く現在に至っている。長崎県美術館は、池野作品の最多の所蔵先（収蔵点数全14点）として数年に渡って調査を進めており、本展は、その成果として開催するものである。

(7) 常設展示室企画②「ジュリオ・マンフレディ L' ORO INVISIBILE, 12+1」

- ・開催期間：4月24日（金）～6月7日（日）
- ・展示概要：イタリア出身の宝飾デザイナー、ジュリオ・マンフレディの個展。ダ・ヴィンチ《最後の晚餐》にちなんで制作された宝飾品13点（12人の弟子と1人のイエス）を紹介します。なお本展は2019年にダ・ヴィンチ没後500年という記念の年にミラノのアンプロジアーナ美術館で開催され好評を博しました。

(8) 県民ギャラリー企画①「かこさとしの世界」

- ・開催期間：8月12日（水）～8月31日（月）
- ・展示概要：絵本作家・かこさとしは「だるまちゃん」をはじめ「からすのパンうあさん」など子どもたちの心を捉えて離さない数々の絵本を生み出してきました。人気シリーズの原画や下絵、資料などを展示し、かこさとしの創作の秘密に迫ります。
- ・目標：20,000人

県民ギャラリー企画②「上海美術展 一家の水墨画」

- ・開催期間：10月16日（金）～11月1日（日）
- ・展示概要：中国駐長崎総領事館の設立35周年を記念して開催される本展では、上海

を代表する 39 人の画家による名品が一堂に会します。また本展は長崎県との交流事業として開催されるもので、長崎県美術協会の作家たちの作品も併せて展示します。

県民ギャラリー企画③「金魚絵師 深堀隆介」

- ・開催期間：3月13日（土）～4月18日（日）
- ・展示概要：深堀隆介（1973-）は、2000年頃から金魚をモチーフとして取り組み始めます。器に何層にも樹脂を流し込み、その各表面にアクリル絵の具で重ねていきます。すると本物の金魚と見紛うばかりの立体感をもって観る者に迫ってきます。本展では初期から新作までの代表作を余すところなく紹介します。
- ・目標：30,000人（年度：17,561人）

○企画展示室利用予定

- ・「県展」9月中旬～10月初旬（予定）

■生涯学習・教育普及事業（事業支出13,909千円、事業収入800千円） （うちボランティア支出1,682千円）

1. ワークショップなど

目的：企画展や常設展の作品に関連した内容、または長崎の文化に関連した組立てのワークショップなどを行い、広く県民に教育普及・生涯学習の機会を提供する。

講師：ワークショップの内容によって、外部講師または当館職員が行う。

対象：受講希望者（子どもから一般まで）

内容：(1)「デザインあ展」関連ワークショップ	4月予定
(2) 日展関連ワークショップ	6月予定
(3)「ゆかた展」関連ワークショップ	7,8月予定
(4)「フランケロ展」関連イベント	11月予定
(5)「隈研吾展」関連イベント	2月予定
(6)「コレクション展」関連ワークショップ・鑑賞会	6,7月予定

目標：1,000人

2. スクールプログラム 学校との連携

目的：県内外の学校が、図工・美術、総合的な学習の時間、学校行事、部活動、修学旅行等で広く活用できるよう、広く研修会等の機会を設定し、教育プログラムとして「体験する美術館」を展開していく。また、PTAや学童保育の受け入れを行う。

講師：当館職員等

対象：県内外の幼・保・学童保育・小学校・中学校・高校・大学等・特別支援学校

- 内容：(1)鑑賞プログラム→常設展示室にて対話型鑑賞「おしゃべり鑑賞」などにより鑑賞活動を深める。
- (2)表現プログラム→アトリエで行う様々な表現活動や、常設展示室にて模写等の活動を行う。
- (3)特別鑑賞プログラム→県内児童生徒を対象とする美術館巡回バス送迎を行う。
- (4)出張授業→美術館職員が学校へ赴き、鑑賞授業をサポートする活動を行う。
- (5)鑑賞教育研修会「出島研修」→県下全域の教職員を対象としたスクールプログラム

の利用促進を目的とした研修会を行う。

目標：12,000人（参考 H28年度12,113人、H29年度11,430人、H30年度12,339人）

3. 不登校児童向けプログラム

目的：長崎県内にいる不登校児童や学生を美術館に招き、作品鑑賞を通して様々な作品の見方や考え方を伝え、社会生活への意欲を取り戻すきっかけとなるためのプログラム。

対象：長崎県内の不登校児童・学生とその保護者・関係者

内容：不登校児童・学生と引率者が美術館に来館し作品鑑賞する。その後カフェを利用し、歓談する。

期間：1月～3月（予定）

目標：25組（計50名）

4. 大学などとの連携

目的：美術館と大学等の美術教育・研究団体が連携することによる共同研究等の実施や、学生の美術への研修・研究等、意識を高めるための活動を展開する。

対象：県内大学及び図工美術教育研究会等

内容：(1)大学の研究室や美術教育・研究団体等と連携し、ワークショップ等を企画・実施する。

(2)博物館実習を実施する。（10人程度）

5. アートクラブ

目的：定期的なクラブ形式で活動し、鑑賞力・表現力を高め、より深く美術に触れる機会を提供する。

講師：当館職員等

対象：小学生（全5回）定員30名

内容：鑑賞学習に加え、様々な造形活動を通して、表現する楽しさを体験する。展覧会や長崎の文化を取り入れた内容を重視する。

目標：小学生30人

6. みんなのアトリエ（全6回）

目的：「開かれた美術館」として、アトリエを中心に子どもから大人、家族連れなどが楽しめる場と機会を提供する。

対象：こども～大人

内容：(1)「ゴールデンウィーク多客型イベント」5月

(2)「展覧会関連ワークショップ等」4月～翌年3月

(3)「夏期多客型ワークショップ」8月

(4)「秋季多客型イベント」10月

(5)「クリスマスワークショップ」12月（こども対象）

(6)「お正月ワークショップ」1月

(7)「美術館セラピーワークショップ」6月～翌年3月（大人対象）

7. 移動美術館

目的：長崎県内の離島を含む遠隔地を対象として、美術館の収蔵作品を鑑賞する機会を提供する企画。希望する県内市町と共催で美術館の収蔵作品展とともにワークショップ、

鑑賞教室、講演会等も併せて開催し、開催地や周辺市町の地域住民の方々に芸術鑑賞の場を設け、長崎県美術館の作品に親しんでいただくために実施する。

開催地：五島市、東彼杵町予定(県内遠隔地2か所)

目標：計2,000人

8. 遠隔授業

目的：学校教育との連携の一環として、遠隔地で美術館を利用しにくい児童生徒を対象に、テレビ会議システムを利用した遠隔授業を行う。

講師：当館職員等

実施校：公募して決定

実施時期：年間2回予定(11月、2月を予定)

9. 中高齢者向けの生涯学習事業

目的：中高齢者向けの生涯学習事業として、ギャラリートーク、講演会等を開催する。

内容：コレクション展シリーズレクチャー 通年(10回)

講師：当館職員等

目標：10回 300人

10. 展覧会関連生涯学習講座

展覧会関連事業として、ワークショップ以外にも講演会、ギャラリートーク、一般、親子向け鑑賞会、映画上映会等を企画し実施する。

目的：企画展における鑑賞学習の場として開催する。

期日：未定(年4回予定)

講師：当館職員等

目標：100人

11. アジアの美術館との連携と共同企画の実施

目的：県民の国際的な視野を広げる活動として、釜山市立美術館(韓国)や中国と共同事業を行う。ワークショップや子供作品展を実施する。

「各地域ゆかりの作家交換ワークショップ」の実施

内容：長崎県と釜山市ゆかりの作家や職員を相互に招き、両館それぞれでワークショップを実施する。

時期：11月(予定)

12. 高等学校卒業生への特別招待券贈呈

目的：県下の高等学校卒業生を対象に招待券を贈呈し、当館の展覧会を鑑賞する機会を提供する企画。

時期：11月～3月末日

目標：500人

13. 鑑賞ツールの開発

目的：展覧会事業に関連した子供向けを中心とする鑑賞補助ツールを作成し、鑑賞活動の充実を図る。

内容：展覧会の内容や必要性に応じて対象年齢を絞った鑑賞ツールを作成する。

14. アトリエブログによる情報発信

目的：生涯学習・教育普及事業の最新情報や活動報告をホームページから発信し、ワークショップ等の利用促進を図る。

時期：展覧会関連ワークショップ実施の前後など

15. アートボランティア事業（事業支出内数 2,346千円）

目的：長崎県美術館アートボランティア制度の理念を実現するための事業を運営する。

登録人数：110人(1月31日現在)

アートボランティアの活動内容：

各分野別活動、イベント補助、チャリティーバナーバッグ制作・販売、ボランティア通信発行(春・秋)など

(1) 館内ボランティア活動の運営及び募集

館内諸業務をサポートするアートボランティアを毎月募集、適切に配置して活躍の場を提供するとともに館運営の円滑化を図る。

(2) 研修、交流会等の企画、運営(予定)

美術館利用者へのサービス向上を目的に各種研修会などを実施する。また、当館ゆかりの美術に関する研修や他館ボランティアとの交流会等を企画し、生涯学習の場としてのボランティア活動に対する意欲を高め、活性化を図る。

① 新年度オリエンテーション 4月

② 対話型鑑賞研修 6月

③ 語学講座 9月

④ ユニバーサルミュージアム関連研修 2月

⑤ ワークショップ関連研修(実技講座など)

⑥ 館外研修(未定)

(3) ボランティアとの連絡および情報共有手段の改善(通年)

活動者のICT利用環境多様化への対応を図り、運営を円滑化する。

(4) 第4期アートボランティア募集方針の策定および募集時期の決定(通年)

■ 広報マーケティング事業（事業支出 11,182千円）

年間利用者目標36万人の達成に向けた集客計画の策定及び集客活動、広報活動を行う。県内外へのピーアールはもとより、世界遺産目的やクルーズ船などの観光客の取り込みに継続的に力を入れる。また、展覧会毎にアンケートを実施し各種事業に反映することで、利用者サービスの向上と満足度向上を目指す。

1. 関係機関と連携した集客活動、生涯学習・教育普及事業の利用促進、協賛金獲得活動

- ・県内外の企業、交通機関、ホテル、行政等への広報活動を展覧会や各種イベントごとに実施し、長崎県美術館の認知度の向上、期待感の醸成、および集客活動を展開する。
- ・生涯学習・教育普及担当と連携し、学校利用等を促進する。
- ・長崎空港、長崎港松ヶ枝国際ターミナル、長崎駅での広報活動や優待施策を行う。
- ・展覧会事業資金を確保するため企業等への協賛金獲得活動を行う。

2. 広報宣伝活動

- ・ 広報用印刷物（チラシ、ポスター、案内リーフレット、月間スケジュール、年間スケジュールなど）の作成・配布を行う。また、ホームページ、メールマガジン、SNS等の自主媒体による計画的な情報発信に努める。
- ・ 常設展示室で開催する「ジュリオ・マンフレディ展」「池野清展」や、季節イベントに広報宣伝予算をつけ、効果的に広報宣伝を進める。
- ・ プレスリリースの配信や内覧会、広告等により、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、インターネット等の各種媒体を通じた美術館事業の周知や期待感の醸成を県内外に向けて行う。
- ・ 県民ギャラリーやホール等、貸会場による館外主催のイベントについて、広報協力を行う（ホームページ、月間スケジュール等）。
- ・ 外国語リーフレット（英語、中国語、韓国語）や英語版ホームページ、クルーズ船向けの英語版チラシ配布等により、海外からの観光客や留学生を誘致する。
- ・ 文化庁メディア芸術祭受賞作品映像など、アートビジョンの映像コンテンツを充実し、魅力ある上映を行う。
- ・ 県・市町広報誌、県政番組などの行政広報媒体を積極的に活用するほか、展覧会ごとに最適な共催や後援を得て、低コストで効果的な広報活動を行う。

3. 調査及び事業評価

- ・ 来館者の動向を把握し、サービスの向上・集客対策へとつなげる。
- ・ 展覧会や関連企画など、事業ごとに利用者意向調査を実施して事業活動に反映する。
- ・ 展覧会の調査を行い、次年度以降の事業計画に反映する。
- ・ 年報を発行し、美術館事業の記録と周知を行う。

4. 地域連携

- ・ 県、市、各種団体、他の観光施設やNPO法人等と連携した各種施策や地域イベントに参加し、地域の活性化に寄与する。
（帆船まつり／さるく／DEJIMA博／みなとまつり／長崎くんち／LoveFes／長崎イルミネーション／ランタンフェスティバル等）

■事務費・財団運営（事業支出 10,757千円）

効率的で効果的に事業を推進するため、毎月の財務会議において収益の改善・経常的支出の節減を目指した経営管理を行う。

1. マネージメントシステムの確立

- ・ 実施した事業の定期的な評価および入館者意向動向調査を行い、問題点の抽出と、それに対する改善策を講じて、所期目標の達成を追求していく仕組みづくりを推進する。

2. 業務改善の推進

- ・ 全職員一丸の体制づくり。
- ・ 経営管理手法の導入、実践。
- ・ 組織管理力の向上と経常的支出の抑制を実施する。

■美術館の管理運営業務（事業支出 172,989千円）

基本協定における指定管理者の範囲を遵守しつつ、美術館の設置目的の実現と運営コストの低減を両立させた、効率的で効果的な館の運営を実現する。

1. 施設及び付属設備の維持及び修繕に関する業務

（事業支出内数 光熱水費59,716千円、施設維持管理費74,613千円）

- (1) 建築物環境衛生管理技術者を配置し、設備管理の全体スケジュール調整と予算管理及び中長期修繕計画の見直し等を行う。
- (2) 県が定めた「美術館施設及び附属設備等の維持管理に関する業務仕様」に基づき、施設の維持管理を適切に行う
- (3) 施設の清掃、警備、機器運転業務、各種保守点検等にあたっては、関係法令及び館のマニュアルに則った適正な維持管理を行う。
- (4) 光熱水費をはじめとしたランニングコストのモニタリング・分析を行い、適正な管理によりコストダウンにつなげる。
- (5) 館の備品、その他物品の適正な管理と運用を行う。
- (6) 公平かつ適正な入札等による競争原理のもと、効率的な管理に努める。
- (7) 長期修繕計画に基づき、効率的に館機能保持に努める。
- (8) 貸し施設については、貸し出しマニュアルに基づき適正な管理、指導を行う。

2. 受付・監視案内業務等の充実（事業支出内数 36,610千円）

- (1) 受付・監視スタッフの直接雇用の継続により、サービススキルの高い専門人材を育成する。
- (2) 接客マニュアルに基づき、来館者の満足を得るための研修等を充実する。
 - ・研修実施により接客スキルの向上、苦情対策システムの適正な運用と来館者の意見を踏まえたサービスの向上を図って行く。
 - ・団体予約の事前情報を共有し、来館者の満足度アップに努める。

3. イベントの開催（事業支出内数 1,416千円）

来館者への動機付けを図り、満足度を向上させるため各種イベントを開催する。

- ・帆船祭り、みなとまつり、おくんち、ランタンフェスティバルなど、地域と密着したイベントとの連携を図る。
- ・クリスマスやGWなど、季節に合った催事を開催する。
- ・長崎大学、活水女子大学が毎月2回日曜日に行うイブニングライブを開催する。
- ・主催事業のセレモニーを開催する。

4. 情報コーナー運営・その他（事業支出内数634千円）

- ・来館者に情報収集の場を提供する。
- ・県内外の文化施設、文化財情報を提供する。
- ・美術雑誌や展覧会関連書籍を配架し、ファン獲得に努める。

<令和2年利用料金事業及びその他の事業

事業支出 166,353千円、事業収入169,649千円>

■会員事業（事業支出 3,000千円、事業収入 13,000千円）

1. 個人・企業・団体への年間ラインナップの魅力をアピールし、販売を積極的に促進する。

・目標	一般会員（プレミアムメンバーズ）	1,000口
	法人会員（ミュージアムパートナーズ）	125口
	オフィシャルパートナー	2者
	キャンパスパートナー	3校

2. 会員向けのサービス充実を図る。

- ・カフェでの期間限定での全メニュー10%割引
- ・新規会員への企画展招待券の配布
- ・ショップでのポストカードプレゼント
- ・イベント優先席の確保
- ・会員との交流会開催（法人会員）
- ・長崎歴史文化博物館（梅屋庄吉ミュージアム含む）、大分県美術館、熊本県立美術館九州国立博物館との会員施設優待割引の利用案内：一般会員

3. オフィシャルパートナーとの連携による、新たな顧客層の開拓

- ・多彩なイベントの開催（就職説明会、従業員研修・会議、スポーツ関連イベント）

■施設等貸出事業（事業収入 11,000千円）

1. ホール・講座室等貸しスペースの利用について、空き状況の確認にホームページ活用を進め利用しやすい環境を作る。また積極的にアドバイスを行うことで多様な利用を勧めスペース利用の活性化を図る。近隣施設の状況を確認しながら利用促進を図り、美術館と県民の密接な関係を築くとともに、運営財源を確保する付帯事業として効率的かつ効果的な運営を行う。

（貸出稼働目標：県民ギャラリー100%、ホール200日、講座室230日、）

- ・県民ギャラリーの利用許可申請の受付、利用者間の調整、許可証の交付及び利用料金の適正な徴収を行う。
- ・ホール、講座室、アトリエ、運河ギャラリー等について、近隣企業に対し積極的利用促進を図るとともに、貸し出しの適正管理及び料金徴収を行う。
- ・屋上庭園、運河劇場等の貸し出しの適正管理及び料金徴収を行う。
- ・エントランスロビーの休館日、閉館後の利用促進し適正な料金徴収を行う。
- ・展示ケース、照明器具等の展示関係備品の適正管理及び料金徴収を行う。
- ・展示計画や施設利用計画への適正なアドバイスを行う。

2. 収蔵作品の貸し出し管理や作品写真の掲載許可等の適正な運用を推進する。

- ・貸し出し適正管理を行う。
- ・写真の掲載許可等、撮影許可等の適正な管理運用を行う。

■ミュージアムショップ、カフェ事業

(事業支出 68,531千円、事業収入 74,745千円)

(ショップ事業支出 49,531千円、事業収入 54,745千円)

(カフェ事業支出 19,000千円、事業収入 20,000千円)

1. 国内美術館で唯一販売しているプラド美術館グッズや当館オリジナルの建築模型セット、軍艦島や長崎ガラスを中心とする長崎関連のオリジナルグッズ、長崎事始めに因んだオリジナルビスケット、展覧会毎の客層に合わせた商品ラインナップや店頭ディスプレイ、また長崎コーナーの拡充や長崎在住作家のフェア等の開催、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産等の品揃えに努め、ショップ来店を目的とする顧客層を開拓する。
2. お客様の要望に応える地元の有機野菜などをふんだんに使った新たなランチメニュー、地元人気の高いスイーツの提供と、季節に合ったメニューや、展覧会観覧券とのセット商品の開発に努めるとともに、スタッフの接客研修を実施し、気軽にご来店いただきくつろげるカフェを目指す。